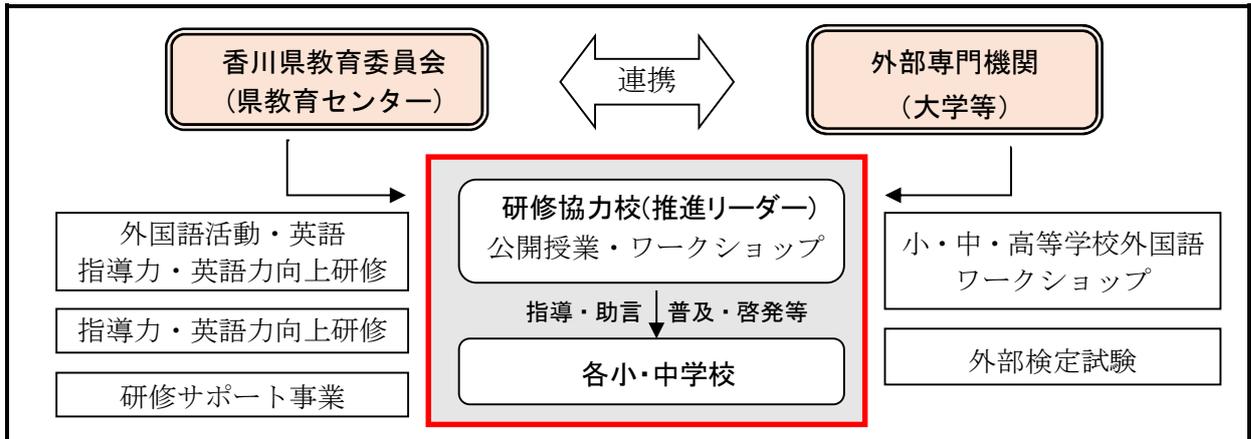


(様式3-2)

香川県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

○英語教育の状況を踏まえた目標管理

本県では、「英語教育実施状況調査」の結果を踏まえ、教員の指導力・英語力向上及び生徒の着実な英語力向上を図るため、以下の目標設定と管理の下で本事業を実施する。

- ①求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合 ※ () 内は 29 年度達成値
【H30 目標値】 [中学校] 50% (36.4%) [高等学校] 92% (91.3%)
- ・求められる英語力を有する中学校英語教員の割合を 5 割以上にするため、外部講師や英語教育推進リーダー等による指導力・英語力向上研修を計画・実施する。特に、中学校英語科教員の指導力・英語力について向上を図るため、民間の英会話講師等を招聘し、体験型の研修を夏季休業中に実施する。
 - ・教員の資質・能力の向上を図り、成果や今後の目標を把握するために外部検定試験を実施する。英語教員や管理職を対象とした研修等の機会に、外部検定試験による資格取得について周知を図り、受験についての理解を得る。
 - ・教育事務所や市町（学校組合）教育委員会と連携し、学校訪問等の際に外部検定試験の受験を促す。
 - ・高校については、目標を達成していない教員に対して、該当校の管理職と協力して外部検定試験の受験を促す。
- ②求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合
【H30 目標値】 [中学校] 50% (33.1%) [高等学校] 30% (27.20%)
- ・4 技能をバランスよく指導し、統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するために、英語教育推進リーダーによるモデル授業や参加者による模擬授業等の実践的な研修を行い、更なる授業改善を図る。また、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、言語活動を充実させるなど、研修実習の内容を具体化した公開授業や研究協議、ワークショップを研修協力校において計画・実施する。
 - ・県で実施している学習状況調査において、中学校英語（2 年生）は、これまで 3 技能調査であったが、新たに「話すこと」を測定するため、民間のスピーキングテストを導入し、4 技能調査とする。調査の結果については、成果や課題、改善策等を各校の英語担当教員に周知し、生徒の英語力を高めるよりよい学習指導について具体を挙げて指導・助言する。
 - ・ALT 等指導力向上研修に小・中学校の英語担当教員の希望者を募り、小学校外国語新教材を用いて、効果的な指導について協議したり、模擬授業をしたりする機会を設け、英語を使える児童生徒の育成に努める。

- ・高校においては、「トビタテ留学！JAPAN」や県独自の留学支援制度について、各校に十分な周知を行い、加えて平成30年度からは「留学フェア」を実施することにより、授業以外でも英語学習に対する動機づけを図る。
- ・高校でのALTの有効活用に関しては、各県立高校や特別支援学校からの特別配置要求に対し、可能な限り調整を図り、生徒がネイティブスピーカーと話すことのできる機会を増やす。

③「CAN-DO リスト」の形で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

【H30 目標値】〔中学校〕 設定 100%(95.5%) 公表 60% (3.0%) 把握 70%(44.8%)
〔高等学校〕 設定 100%(95.8%) 公表 25%(20.8%) 把握 43%(41.7%)

- ・「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標は、生徒が学習していく上で明確な指標となることから、保護者への公表や生徒の実態を把握することによる授業改善を進め、研修や連絡協議会、学校訪問等の際に、その必要性について指導・助言等を行い、各校での活用を図る。
- ・研修協力校において公開授業を行い、「CAN-DO リスト」の活用を通じてどのような指導方法がよいのか、何をねらいにした授業づくりをしていくのか、具体的に示して普及を図る。
- ・県立高校での作成については、未作成の高松市立の高松第一高校に対して、市教委と協力しながら作成を求めるとともに、他の県立高校には学校訪問時等に「CAN-DO リストの公表と把握」について検討するよう助言する。
- ・小豆島地域において、作成中の小・中・高一貫した「CAN-DO リスト」を活用した授業を行うとともに、「CAN-DO リスト」の改善を図る。

④授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

【H30 目標値】〔中学校〕 90%(98.5%) 〔高等学校〕 40%(35.6%)

- ・英語教育推進リーダーによる研修実習や公開授業等を通じて、英語を用いた言語活動が中心となった授業の在り方や、その有効性について理解を深めるとともに、指導技術を学ぶ。研修実習に参加した教員は、校内研修等の機会に研修の成果を普及する。
- ・教育事務所や市町（学校組合）教育委員会と連携し、学校訪問等の際に、生徒の英語による言語活動が中心の指導方法等について指導・助言する。
- ・高校においては、生徒の英語による言語活動の時間を増やすために、ペアワーク・グループワークを基本とした学習形態が主流となるよう、英語科主任会や学校訪問時等に助言を行う。

⑤「話すこと」及び「書くこと」における「外国語表現の能力」を評価するためのスピーキングテスト、ライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

【H30 目標値】スピーキングテスト〔中学校〕 5回(3回) 〔高等学校〕 科目によって数値が異なる
ライティングテスト〔中学校〕 5回(2回)

- ・外部講師や英語教育推進リーダーによる研修等を通じて、言語活動の評価の在り方について理解を深めるとともに、パフォーマンステストの効果的な実施や評価について協議するなどして、一層の充実を図る。
- ・生徒に「話す力」と「聞く力」を確実に身に付けさせるために、計画的・系統的な指導や評価を行うよう助言する。
- ・県の英語の学習状況調査（2年生）を3技能調査から、民間のスピーキングテストを加えた4技能調査とし、生徒の英語力の実態を把握する。また、調査結果を分析し、指導の改善につながるよう、各学校に改善の方向を示す。
- ・高校に対しては、民間による英語4技能資格・検定試験の大学入試への活用の時期が近づいていることから、県立高校1年生の受験希望者を対象として受験料の一部補助を行うとともに、教員を対象とした試験結果分析会を委託事業により行い、指導改善を図る。

⑥授業における、英語担当教員の英語使用状況

【H30 目標値】〔中学校〕 90%(95.0%) 〔高等学校〕 65%(60.0%)

- ・英語教育推進リーダーによる研修実習等を通じて、生徒が英語に触れる機会を充実させる授業の在り方や、その有効性について理解を深めるとともに、指導力の向上を図る。研修実習に参加した教員は、校内研修等の機会に研修の成果を普及する。
- ・教育事務所や市町（学校組合）教育委員会と連携し、学校訪問等の際に、教師による発話だけでなく、生徒とのインタラクションを図りながら言語活動を展開する指導方法等を指導・助言する。
- ・高校においては、全ての学校訪問で、基本的に授業は英語で行うことを再確認する。

⑦域内小学校における、相応の英語力を有する教員の全教員に占める割合

【H30 目標値】〔小学校〕設定しない

- ・英語教育推進リーダーによる研修実習等を通じて、授業中にできるだけ多くの英語を使用する指導技術について学ぶ。研修実習に参加した中核教員は、校内研修や公開授業等を積極的に行い、研修の成果を普及する。
- ・管理職を対象とした研修等の機会に、英語力向上を図る研修への参加や校内研修の実施について理解を得る。
- ・研修や学校訪問等の際に外部検定試験について周知し、受験を促す。
- ・小学校教員の英語指導力・英語力の向上を図るため、香川大学と連携して中学校2種免許（英語）の取得に向けた周知を行う。

⑧研修実施回数、研修受講者の人数及び全英語担当教員（小学校は全教員）に占める割合

【H30 目標値】

〔小学校〕 9回 180人 （10回 462人 14.8%）

〔中学校〕 9回 200人 （9回 219人 73.7%）

〔高等学校〕 3回 48人 （3回 48人 22.7%）

- ・小学校における外国語活動での指導方法の改善、中学校における4技能をバランスよく育成する指導の改善を図るために、公開授業及び研究協議、ワークショップ等を研修協力校において計画・実施する。
- ・外部専門機関と連携し、教員の指導力と英語力の向上をねらいとした講座形式の研修を計画・実施する。
- ・中学校教育研究会英語部会と協力し、中学校英語科教員を対象に英会話スクール等民間の力を生かした研修を行い、英語指導力・英語力の向上を図る。

（3）研修の体系と内容の具体

教員の指導力・英語力向上に向けて、以下の研修を実施する。各研修後にアンケート調査を実施しその結果を検証するとともに、成果と課題を次年度以降の研修に反映させる。

1 外国語活動・英語 指導力・英語力向上研修（各校種50名程度）

小学校から中核的な教員、中・高等学校から英語担当教員を集め、中央研修を受けた「英語教育推進リーダー」を講師とした3日間の研修会を県教育センターで開催する。この研修会を継続することで、新学習指導要領の全面実施となる平成32年度までには、県内すべての小学校に、本研修を受講した中核教員が配置されるよう計画する。

研修後は、参加者に対しアンケートを実施するとともに、自身の英語力を把握するため外部検定試験の受験を促す。本研修を受講した教員は、国から配布された資料やDVD等を活用しながら、各学校で校内の教員に向けて研修内容を伝達する。

2 小・中・高等学校外国語ワークショップ（100名参加予定）

新学習指導要領の実施に向け、小学校教員を主な対象とし、中学年での外国語活動、高学年での教科化について研修を行い、教員の指導力の向上を図る。また、中学校教員を主な対象と

し、パフォーマンス評価や生徒に英語力を身に付けさせるための具体的な指導等について研修を行う。

3 英語教育推進リーダーによる公開授業及び授業研究（150名参加予定）

小・中学校の中央研修受講者が公開授業を実施し、その成果を県内に普及する。授業後は、大学教授等を講師に招き、指導力・英語力向上に向けた具体的な指導助言をいただく。また、若年教員には公開授業、研究協議等の参加を義務付けており、リーダーの指導技術について協議をすることで、優れた実践を伝承していく機会とする。

4 教育課程運営改善連絡協議会（120名参加予定）

3年のうちの悉皆である本協議会では、指導方法の工夫改善や評価に関する研究協議等を行い、教育課程の確実な実施に資する。国や県の施策について理解を深めたり、公表されている資料等の活用を促したりする。また、中央研修受講者による実践の成果を周知し、外国語の授業について改善を図る。

5 中学校英語科教員英語指導力・英語力向上研修

中学校教育研究会英語部会と協力し、中学校英語科教員を対象に、英会話スクール等民間の力を生かした研修を行い、英語指導力・英語力の向上を図る。国が求める英語力に達していない教員には、外部検定試験等を受験し、自らの英語力を把握するよう勧める。

6 外国語指導助手の指導力等向上研修

A L Tと小・中学校の英語担当教員の指導力向上を図るため、効果的なチームティーチングの在り方等について協議したり、模擬授業を行ったりする研修を実施する。

7 小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習

香川大学と連携し、小学校教員に中学校英語教員二種免許の取得を推進する。

8 研修サポート事業

要請により、県下の学校の校内研修や授業研究に指導主事等を派遣する。教材研究や指導案作成等についても指導・助言する。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月	第1回運営委員会（小・中）	英語教育推進リーダー
6月	第1回小学校外国語活動指導力・英語力向上研修 第1回中学校英語指導力・英語力向上研修 第1回高等学校英語指導力・英語力向上研修 中・高等学校外国語ワークショップ	英語教育推進リーダー 英語教育推進リーダー 英語教育推進リーダー ベネッセ
7月	第2回運営委員会（小・中） 第2回小学校外国語活動指導力・英語力向上研修 第2回中学校英語指導力・英語力向上研修 第3回運営委員会（小・中）	英語教育推進リーダー 英語教育推進リーダー 英語教育推進リーダー 英語教育推進リーダー

8月	第2回高等学校英語指導力・英語力向上研修 第3回小学校外国語活動指導力・英語力向上研修 第3回中学校英語指導力・英語力向上研修 教育課程運営改善連絡協議会（小・中） 中学校英語科教員英語指導力・英語力向上研修	英語教育推進リーダー 英語教育推進リーダー 英語教育推進リーダー 英語教育推進リーダー 民間機関（公募）
9月	小学校外国語ワークショップ 第1回公開授業及び授業研究（高松市立川添小学校）	神田外語大学 鳴門教育大学
10月	第2回公開授業及び授業研究（坂出市立東部小学校） 第3回高等学校英語指導力・英語力向上研修	比治山大学 英語教育推進リーダー
11月	第3回公開授業及び授業研究（さぬき市立長尾中学校） 第4回公開授業及び授業研究（善通寺市立東中学校）	広島大学 香川大学
12月		
1月	授業改善に向けての協議会（中）	
2月	英語外部検定試験 外国語指導助手の指導力等向上研修 授業改善に向けての協議会（小） 第4回運営委員会（小・中）	TOEIC 国際交流協会等 英語教育推進リーダー
3月		
<p>【その他の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の中学校学習状況調査において中学2年生を対象に、英語4技能を調査するため、民間の資格・検定試験を活用し、スピーキングテストを実施する。 ・新学習指導要領が移行期間となり、小学校での学習を踏まえた指導が中学校で行われるよう、小・中学校の英語教育について連携を図るよう推進する。 ・小学校高学年での英語教科化に備え、昨年度作成した小学校5・6年生用学習指導案や教材（70時間分）を県教育センターのホームページに掲載し、活用を促す。 		

